

# 第42回 国際福祉機器展 H.C.R. 2015 報告

## 1 オープニングセレモニー

多数の来場者、後援・協賛団体の関係者などにお集まりをいただき、第42回国際福祉機器展 H.C.R. 2015は、全国社会福協議会 斎藤十朗会長の開会宣言によって会期3日間の幕が開かれました。開場に先立って行われた『くす玉オープン』は、斎藤会長、H.C.R.海外コーディネーターのベン・アポロ・ラスムセン氏〔欧州担当〕、トム・ポーチャディング氏〔北米担当〕、高井康行本会理事長などが参加して執り行われ、H.C.R. 2015がスタートしました。



・日時 10月7日(水) 9:50～ ・場所 東2ホール前

## 2 14か国・1地域から 522社・団体が出展

出展社数については、国内企業・団体が461社・団体（うち、新規出展は55件）、海外からは13か国・1地域より61社・団体が出展し、特に、中国からの出展が昨年の1社から5社へと増えたほか、欧州各国からも着実な増加がありました。総面積51,380㎡の会場に、各国からの20,000点を超える福祉機器、介護用品が総合展示されました。

国名	社数
オーストラリア	1
カナダ	2
中国	5
デンマーク	6
フランス	2
ドイツ	6
日本	461
メキシコ	1
オランダ	1
スウェーデン	6
スイス	1
台湾	15
トルコ	1
イギリス	5
アメリカ	9

## 3 15回目の出展を迎えた企業・団体に対して 感謝状を贈呈

今年もH.C.R.では、本展示会への出展が15回目を迎えられた国内17社、海外1社の計18社・団体に対し、展示会初日の10月7日（水）に、オープニングセレモニーが催されたガレリア・東2ホール前のステージにおいて贈呈式を行い、感謝状をお渡ししました。

### ●15回出展感謝状贈呈企業（国内17社、海外1社）

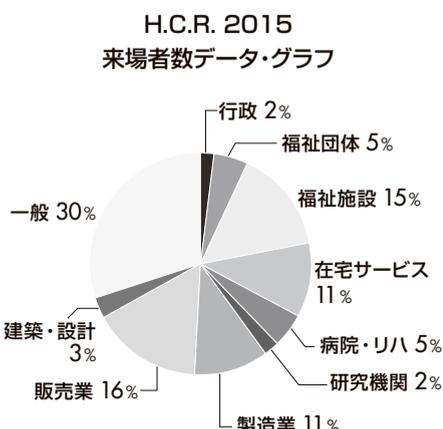
- ・(株) アサヒコーポレーション
- ・(有) 移動サポート
- ・(株) エクセルエンジニアリング
- ・(公財) 岡山県産業振興財団
- ・クリスタル産業(株)
- ・広洋産業(株)
- ・精工技研(株)
- ・ダブル技研(株)
- ・(株) ダンロップホームプロダクツ
- ・中村プレイス(株)
- ・日本アサヒ機工(株)
- ・日本アサヒ機工販売(株)
- ・(有) フセ企画
- ・(株) ブラッツ
- ・(株) マリアンヌ製靴
- ・(株) 山口安製作所
- ・(株) ワイズマン
- ・LASAL A/S (Denmark)

※社名五十音順/アルファベット順

## 4 来場者数は119,075人と、12万人に迫る勢いに

第42回国際福祉機器展H.C.R. 2015の来場者数は、3日間の通算で、のべ119,075人となりました。

来場者の分類では、一般の方が30%と最も多く、続いて販売業の16%、福祉施設の15%、在宅サービスと製造業の11%という順となり、昨年度に比べて企業関係者の来場の割合がやや増加する結果となりました。



## 5 出展製品

### 【出展製品別一覧】

<b>移動機器</b>		
1 手動車いす	46	
2 車いす関連用品	65	
3 電動車いす	32	
4 電動三輪・四輪車	8	
5 自転車	3	
6 介助車	11	
7 歩行器・歩行補助車	52	
8 杖	40	
9 ストレッチャー等移動器具	7	
10 移乗補助機器	28	
11 床走行リフト	22	
12 固定式・据置式リフト	19	
13 介助・歩行補助ロボット	11	
14 障害者用自動車運転装置	9	
15 車いす等用福祉車両	10	
16 入浴用特殊車両	2	
17 福祉施設等業務用自動車・エコカー	1	
<b>ベッド用品</b>		
18 ベッド	27	
19 マットレス・床ずれ防止製品	45	
20 サイドテーブル	13	
21 介護用シーツ	14	
22 ベッド用品(その他)	18	
<b>入浴用品</b>		
23 浴槽	19	
24 入浴用チェア	29	
25 滑り止め用品	13	
26 浴槽台	12	
27 入浴リフト	10	
28 入浴用品(その他)	17	
<b>トイレ・おむつ用品</b>		
29 ポータブルトイレ	18	
30 便器・便座	9	
31 防臭剤・消毒剤	10	
32 トイレ関連用品	23	
33 おむつ関連用品	16	
34 自動排泄処理装置	7	
<b>衣類・着脱衣補助用品</b>		
35 衣類	24	
36 靴	18	
37 帽子・保護帽・かつら	2	
38 着脱衣補助具	5	
<b>コミュニケーション・見守り機器 (聴覚・視覚・その他)</b>		
39 補聴器	4	
40 緊急通報・見守り装置	29	
41 障害者用OA機器、ソフトウェア、操作補助具	8	
42 障害者用AV機器	1	
43 拡大読書器	1	
44 活字文書読上げ装置	1	
45 福祉電話、FAX、携帯会話補助器	4	
46 視覚障害者用誘導システム	0	
47 コミュニケーション関連ロボット	9	
48 コミュニケーション・見守り機器 (その他)	20	
<b>建築・住宅設備</b>		
49 スロープ	24	
50 手すり	32	
51 エレベーター	2	
52 段差解消機	12	
53 階段昇降機	11	
54 建築・住宅設備(その他)	10	
<b>リハビリ・介護予防機器</b>		
55 歩行等訓練機器	30	
56 リハビリ用教材・機器	41	
57 筋力トレーニング機器、身体機能訓練機器	28	
58 口腔ケア用品	16	
<b>義肢・装具</b>		
59 義肢・装具	20	
<b>日常生活支援用品</b>		
60 自助具	25	
61 障害者スポーツ・レクリエーション用品	9	
62 介護関連用品	40	
63 日常生活支援用品(その他)	22	
<b>介護等食品・調理器具</b>		
64 食食用具・食器	15	
65 キッチン	2	
66 調理器	3	
67 高齢者・障害者向け食品	11	
<b>福祉施設・住宅環境設備・用品</b>		
68 施設建築、施設用床材・壁材	9	
69 自然エネルギー・省エネルギー技術機器	1	
70 再資源・水浄化処理機器	0	
71 洗濯機・乾燥機、掃除機、脱臭器	7	
72 いす・座位保持／立ち上がり補助用品	16	
73 家具、テーブル、洗面台	21	
74 火災報知設備、自動消火設備	3	
75 防災・避難用品	9	
76 自家発電・蓄電装置	0	
77 介護職員用衣類	10	
78 福祉施設・住宅環境設備／用品 (その他)	16	
<b>感染症等予防用品</b>		
79 空気清浄器、加湿器、消毒器	13	
80 感染症等予防用品(その他)	11	
<b>在宅・施設サービス経営情報システム</b>		
81 福祉事業関係コンピュータシステム	35	
<b>出版・福祉機器情報</b>		
82 福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト	34	

## 6 国際シンポジウムは、欧米日の介護サービス従事者の確保をテーマに満席で開催

H.C.R.では、海外とわが国に共通した福祉・介護分野の課題をテーマに、諸外国から招いた専門家による現地の取り組み状況や課題についての報告を基に考察を行う国際シンポジウムを、国際福祉機器展と併せて毎年開催しています。

わが国において介護サービス従事者の将来に向けた確保の必要性が高まっていることや、こうした喫緊の課題に対して官民あげて取り組みが進められているものの、社会経済状況も反映してか、十分な成果が出ているとは言い難い状況が続いており、特に都市部においては問題が恒常化しています。また、経済連携協定(EPA)に基づいて平成20年度から開始された一部のアジア諸国からの介護福祉士候補者の受入れも、施行から一定の期間を経て、今後のあり方についてさまざまな意見が出されています。

H.C.R. 2015では、介護従事者など介護の専門職の役割機能、その充足状況や処遇の現状、課題、今後の確保策などについて、わが国が介護保険制度導入の参考としたドイツ、及び、移民労働者が多い米国の実情を理解し、今後のわが国の対応策について考える場とするために、同シンポジウム

を開催しました。

当日は、ドイツと米国から専門の講師を招き、この問題に対する両国の取り組みの特徴や制度、介護の仕事への考え方の違い、現状や課題などを解説いただくとともに、日本の状況や課題と比較・対象をしながらテーマに対する考察を深めました。参加者は会場の定員に達し、253人にのびりました。

## □ H.C.R. 2015国際シンポジウム | 10月8日(木) 13:00～16:40

### 介護サービス従事者をいかに確保するか？

～ドイツ、米国、日本の比較から今後の課題とその対策を考える

講師 [シンポジスト] :

#### ① ドイツ /

グリット・ブレセケ (Dr. Grit Braeseke) 氏  
ヨーロッパ・ヘルスケア・リサーチ & 社会経済研究所  
サイエンス分野担当部長



#### ② アメリカ /

ロビン・ストーン (Dr. Robyn Stone) 氏  
米国リーディング・エイジ・センター事務局長、元ホワイトハウス副次官補佐 (障害者・高齢者・介護政策担当)、元米国保健福祉省次官補代行

#### ③ 日本 (施設現場の立場から) /

湯川 智美 氏 社会福祉法人 六親会常務理事、本会監事

#### ④ 日本 (研究者の立場から) /

塚田 典子 氏 日本大学商学部教授、本会理事

チューター 近藤 純五郎 氏 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、  
弁護士、元厚生労働事務次官

会場 会議棟6F 605～608会議室



## 7 H.C.R. セミナー

H.C.R.では介護・福祉機器の展示と併せて、例年に引き続き、来場いただいた福祉サービスを利用されている方々やそのご家族、保健・福祉・介護の関係者、企業関係者などに対して、関連する制度の動向や課題、福祉サービスの質の向上や施設の経営をめぐる最新の情報などを提供するために、H.C.R.セミナーを開催しました。

いずれのセミナーにも関心が高く、一般来場者をはじめ、社会福祉施設の役職員、介護支援専門員、ホームヘルパー、社協役職員など専門職も含めたのべ3,350人が参加し、それぞれのテーマに対する理解を深めました。

### (1) 一般、福祉利用者・家族向け

#### ① 高齢者むけの住まいの種類と選び方

～有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など

会場	会議棟6F605～608会議室
日時	10月8日(木) 10:30～12:00
講師	小瀬 有明子 氏 NPO法人 シニアライフ情報センター 理事

#### ② 一般家庭における介護で腰痛にならないための基本技術

～ポディメカニクスの理解と活用

会場	会議棟6F605～608会議室
日時	10月9日(金) 11:00～12:30
講師	青柳 佳子 氏 浦和大学短期大学部 介護福祉科 特任教授

#### ③ はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー (会場: 東3ホール 特設会場A)

「基本動作編」「自立支援編」「住宅改修編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類し、3日間にわたってセミナーを開催しました。



10月7日(水)	11:00～12:00	トイレ・排泄用品	NPO法人 日本コンチネンス協会 牧野 美奈子 氏
	13:00～14:00	住宅改修	首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 准教授 橋本 美芽 氏
	15:00～16:00	入浴機器	高齢者生活福祉研究所所長 / 理学療法士 加島 守 氏

10月8日(木)	11:00～12:00	ベッド	福祉技術研究所(株)代表取締役 市川 洌 氏
	12:30～13:30	リフト等移乗用品	福祉技術研究所(株)代表取締役 市川 洌 氏
	14:00～15:00	杖・歩行器等補助用品	高齢者生活福祉研究所所長 / 理学療法士 加島 守 氏
10月9日(金)	15:30～16:30	車いす	公益財団法人武蔵野市福祉公社作業療法士 堀家 京子 氏
	11:00～12:00	コミュニケーション機器	東京大学先端科学技術研究センター 准教授 巖淵 守 氏
	13:00～14:00	福祉車両	国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 自立訓練部機能訓練課 自動車訓練室長 熊倉 良雄 氏 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部 主任理学療法士 吉田 由美子 氏
15:00～16:00	自助具	ヒューマン代表 岡田 英志 氏	

#### ④ 高齢者むけの手軽な日々の食事

～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ

高齢者の一人暮らしや、高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも、大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などで済ませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの惣菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、毎日の食事を、簡単で、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる食事のつくり方と実演にてご紹介しました。

当日配付したパンフレットでは、レシピと食事づくりのポイントをわかりやすく説明して掲載し、「特設会場C」の特設ステージにおいて、会期中の毎日 13:00～14:00の時間帯に「高齢者の料理講座」として開催しました。

日時	10月7日(水)～9日(金) の各13:00～14:00の時間帯
講師	今 寿賀子 氏 虎の門病院栄養部部長 押田 京子 氏 虎の門病院栄養部副部長

### (2) 福祉職向け

#### ① 福祉施設における感染症の知識と対応

～知っておきたい感染症対策のポイント

会場	会議棟6F605～608会議室
日時	10月7日(水) 11:00～12:30
講師	小坂 健 氏 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

#### ② 福祉施設の実践事例発表

～役立つ活かせる工夫とアイデア

会場	会議棟6F605～608会議室 (A、B会場分割講義)
日時	10月7日(水) 14:00～16:30
発表事例	<p>《A会場 / ケアに関する工夫事例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 口腔ケアの取り組み</li> <li>② 実践的転倒予防トレーニング</li> <li>③ 命の最後を安心して迎える為の支援～大好きな家族と住み慣れた家で～</li> <li>④ コミュニケーションと食支援の実践～言語聴覚士15年の取り組み～</li> <li>⑤ QOL向上への取り組み ～一人暮らしのいきいきライフ～</li> </ul> <p>司会進行: 眞下 宗司 氏 社会福祉法人 誠光会 身体障害者療養施設光荘施設長</p> <p>《B会場 / マネジメントに関する工夫事例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① エーデル土山のBCP計画 &amp; 施設管理室の取組</li> <li>② 社会福祉懇談会における日本経営品質賞勉強会の取り組み</li> <li>③ 利用者の尊厳と権利が守られる暮らしの実現を目指して～全社的取り組みから～</li> <li>④ 介護職員の腰痛管理で入居者により安全で安心した介護サービスが提供できる</li> <li>⑤ 中間的就労 (ユニバーサル就労) の実践</li> </ul> <p>司会進行: 久木元 司 氏 社会福祉法人 常盤会 理事長</p>

#### ③ ユニバーサルでエコなまちの創生

～2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて

会場	会議棟7F701～702会議室
日時	10月9日(金) 13:30～15:30
プログラム	<p>I 基調講演 ユニバーサルでエコなまちの創生 ～2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて 講師: 炭谷 茂 氏 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長、 社会福祉法人 恩賜財団済生会理事長</p> <p>II 事例報告 報告①: 社会福祉法人 太陽の家理事長 中村 太郎 氏 報告②: アルハイテック(株) 常務取締役 水木 伸明 氏</p>

### (3) 企業関係者向け

#### ① 障害者に対する差別の禁止と合理的配慮

～障害者雇用促進法の改正および障害者差別解消法の制定を受けて

会場	会議棟6F605～608会議室
日時	10月9日(金) 13:30～15:00
講師	長谷川 珠子 氏 福島大学 行政政策学類・法学専攻 准教授

## 8 H.C.R.特別企画 (常設展示・相談・デモンストレーション)

### ①アルテック講座2015

～身の回りにおけるテクノロジー（アルテック）で創る豊かで楽しい生活  
(東6ホール 特設会場B)

多くの人の身の回りにおけるテクノロジー（アルテック）を用いる事で、障害のある人の生活が大きく変わります。たとえば、印刷物を読めない人でも電子書籍や電子新聞であれば簡単に読む事ができます。音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人もスマートフォンでチャットを楽しみ、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、鉛筆を持っていないなどの理由でメモをとれない人はICレコーダやデジカメを上手く活用すれば記録がとれるなど可能性は大きく広がっています。

このセミナーでは、誰もが日常活用しているスマートフォン、タブレット、パソコン、ICレコーダ、デジカメなどのICT（情報通信技術）製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介しました。

#### 【講座テーマ】

10月7日(水)	① Windows パソコンのアクセシビリティと応用 ～アルテックを用いた障害のある人の生活支援 ② スマホやタブレットのアクセシビリティ ～肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす ③ アルテックを読み書きなどの学びのツールに変える ～アルテックを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援
10月8日(木)	④ 障害者差別解消法とアルテックの意味 ～合理的配慮の1つとしてのアルテック ⑤ 障害者雇用とアルテック ～障害者雇用現場でのアルテック活用の実例 ⑥ スマホやタブレットを視覚障害の福祉機器に変える ～アルテックを用いた視覚障害のある人の生活支援
10月9日(金)	⑦ スマホやタブレットを生活支援ツールに変える ～アルテックを用いた肢体不自由のある人の支援のポイント ⑧ 身の回りにおけるテクノロジー（アルテック）が支援技術に変わる ～高齢者や障害のある人の生活支援 ⑨ ゲーム用カメラやタブレットのカメラを生活支援ツールに変える ～重度肢体不自由や重複障害のある人の生活支援

### ②障害児のための「子ども広場」

(東6ホール 特設会場C)

子どもたちと一緒に来場されたご両親が広いホール内を子ども向けの機器を探し歩く負担を軽減するために、H.C.R.では今年も「子ども広場」を会場内に設置して該当する製品を集中展示したほか、福祉機器の利用や療育に関する相談コーナーや、保育士が常駐する「ひとやすみコーナー」などを設けました。



また、新企画「現在も未来も大切です！子どもの住宅改造（肢体不自由・発達障害）相談コーナー」や「子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編」なども設けました。

#### a. 福祉機器展示コーナー

会期中3日間にわたり、親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器の常設総合展示と製品説明を行いました。

【展示製品】 いす・カーシート、食事用具・食器／衣類・靴、車いす、バギー・歩行器、学習機器／コミュニケーション機器など

#### b. 相談コーナー（無料、療育相談と福祉機器相談）

3日間にわたって相談員2名を配置し、11:00～12:00、13:00～14:30、15:00～16:00の3回無料で相談に応じました。

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)

#### c. ひとやすみコーナー

保育士が常駐して、広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者のみなさんと子育てについてお話しする場として設けました。

(協力：東京都社協保育士会)

#### d. 現在も未来も大切です！子どもの住宅改造（肢体不自由・発達障害）

##### 相談コーナー

日程：10月7日(水)～9日(金)の各日14:00～16:30に専門職による相談

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)

#### e. 子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編

日程：10月8日(木) 参加定員:15名

プログラム：①12:45～13:15 車いす試乗・調整

②13:15～15:00 車いすトレーニング

③15:00～15:20 商品紹介

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会)

#### ③ふくしの相談コーナー

(東6ホール 特設会場C)

作業療法士や技師などの専門家が来場者の福祉機器、自助具に関わる相談に無料で応じました。

(協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児協会大肢協ボランティアグループ自助具の部屋)

#### ④高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー

～いつまでも元気に働く「10のコツ！」展 (東6ホール 特設会場C)

さまざまな生活場面の中でも、人々の生活を支え、健康、生きがいに繋がっているのが「働く」場面です。

日本はどの国よりも早く超高齢社会をむかえ、経験を重ね、ネットワークが広い熟年の方々は、今後ますます「働き手」としての需要が高まってきます。

そこで、「いつまでも元気に働くには、どのようなコツがあるのか」「どんな道具が支援してくれているか」などをテーマに、多くの「働く高齢者」からのアンケートを元にこのコーナーを企画しました。

アンケートの結果から、いつまでも元気に働くためのコツを10か条にまとめ、「健康」「身だしなみ」「仕事」の3つのシーンに分けて展示しました。(企画・監修：共用品推進機構、運営協力：高齢社・かじワン、ブライト)



#### ⑤福祉機器開発最前線

(東6ホール 特設会場C)

企業・研究機関の研究開発、試作状況などの最新の情報提供や紹介の場である本コーナーでは、今年も、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業や厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の対象製品を含む合計12点の最新機器の展示及びデモンストレーションを行いました。



RT.ワークス株式会社	ロボットアシストウォーカー RT.1 【移動支援(屋外)】
NKワークス株式会社	3次元電子マット式見守りシステム 【見守り支援(施設)】
キング通信工業株式会社	シルエット見守りセンサ【見守り支援(施設)】
株式会社MTヘルスケアデザイン研究所/ フューライト・コミュニケーションズ株式会社 ほか	ニンニンPepper
株式会社Xiborg/ 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所	ロボット技術を用いた義肢装具
株式会社タカラトミー	OHaNAS (オハナス)
兵庫県立総合リハビリテーション中央病院ロボット リハビリテーションセンター・兵庫県立福祉の まちづくり研究所	改良型筋電義手
富士機械製造株式会社	移乗サポートロボットT1【移乗介助(非装着型)】
ナプテスコ株式会社	外出支援アシスト歩行車【移動支援(屋外)】
株式会社日本アシスト	ロボット便座
株式会社ネットワーク21	独居高齢者の見守り・転倒検知システム 【見守り支援(在宅)】
Danish Technological Institute/ K.R.Hospitalsudstyr A/S (デンマーク)	OPUS 5 医療・介護ベッド

※国内企業は五十音順

#### ⑥被災地応援コーナー

(東5ホール内 小間番号5-09-08)

昨年度に引き続き、東日本大震災で特に被害の大きかった東北3県（岩手県、宮城県、福島県）のセルプ（障害者授産施設）の製品を販売するコーナーを設けました。